

子どもの発達支援を考えるSTの会

代表インタビュー

子どもの発達支援を
考えるSTの会 代表

(言語聴覚士)

中川 信子氏



子どもの発達支援に携わる言語聴覚士(ST)らが情報やノウハウを共有する「子どもの発達支援を考えるSTの会」は昨年9月末で一般社団法人を解散し、任意団体に戻って新たなス

昨年9月、一般社団法人から任意団体へ 運営委員22人で新体制発足

タートを切った。

同会は2002年に発足し会員は約930人。12年4月に一般社団法人となったが、法人維持のための作業負担が重いことに加え、

情もあり、そろそろ会を終

わりにしようかなとも考えたのですが30代、40代を中心に若い方が『続けましょ』と運営委員に手を挙げてくれたのです』と話す。

熱い想いで活動、各地で受け継ぐ

研修会 昨年は北海道、今年は東北

次世代に引き継げる集団運営の体制に移行するため法人を解散することにした。中川信子代表は「私を含めて、立ち上げにかかわった3人は高齢者の仲間入りをしました。いろいろな事

営を図る。新体制は北海道から九州まで全国各地にいる22人の運営委員で構成。中川代表のほか、副代表3人、会計1人、監事2人を選出しスムーズでかつオープンな運営を図る。

「昨年は北海道・小樽の会員が手を挙げてくれ、東京以外で初めて研修会を開催できたのですが、熱い想いを持った地元の方がたくさん来てくださいました。今年は東北の運営委員を中心に東北での研修会を予定しています。運営委員が各

地方に複数いる体制になったので、それぞれの地方で小児分野のSTのおつまりができればいいなと思っています」

子どもSTの求人情報や担当する子どもの転居先で

の受け入れ先探しなどメールリングリストによる情報の交換、東日本大震災の被災地への支援はこれまで同様に継続して行っていく。

担当する子どもの転居先で

「釜石市、気仙沼市ともに活動が認められ市で予算化してもらえました。ST不在の地で親子のコミュニケーション支援を行うSTへの理解が深まり、ニーズが掘り起こされたことに大きな手応えを感じています。『小児分野のSTは言語聴覚士会の中でも各県士会の中でも少数派。心細い思いの拠り所がこの会』という多くの会員の期待にこたえられる活動を継続しながら、会員の拡大にも取り組んでいきたいと思っています」